

令和2年度地震・津波防災訓練 (内閣府・北海道・古平町)

実施報告書 (概要版)

北海道古平町について

古平町は総面積の約90%が山地で、地形は南北に長く、その中央を古平川が縦貫して河口周辺に平坦地をつくり、この地区と西北部を流れる丸山川沿いに人口が集中している。

古平町では留萌沖を震源とする大規模地震の発生が想定されており、まず、ひとりひとりが地震の揺れから身を守ることが必要である。

今後の訓練や実際の災害時の実効性を高めるために、町としての共助のあり方や細部の調整の気づきを見いだすねらいとした。

訓練後半は、避難所開設の必要性を認識し、町内の共助の重要性に気づく知識習得の機会を設けた。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：令和2年10月31日（土）、午前10時、留萌沖を震源とする強い地震が発生し、古平町では震度5強を観測した。古平町では、停電が発生し、国道229号では信号交差点が混乱。午前10時2分、気象庁は後志地方沿岸に大津波警報を発表し、古平町役場では直ちに町内全域に対して地域防災無線で避難勧告を発令し、訓練を開始した。
- 実施日時：令和2年10月31日（土）10：00～13：00
（事前ワークショップ10月5日（月）、訓練後ワークショップ12月7日（月））
- 実施地区：古平町
- 主 催：古平町、北海道、内閣府
- 参加者数：234名
- 参加機関：北後志消防組合古平支署、北後志消防組合古平消防団、社会福祉法人古平福祉会、古平町食生活改善推進員会、東しゃこたん漁業協同組合生産部、ヤマヤ物産（有）、（株）彩生、合同容器（株）、（株）総合サービス、ウォレットジャパン（株）、（株）ムラカミ、（株）大島水産、（株）よ吉野、北海道、札幌市

訓練の評価

訓練当日は天候にも恵まれ、地域住民や参加機関等合わせて約 234 名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、地域住民のアンケート結果等を分析し、今後の防災対策や津波避難訓練の参考となるよう「得られた成果と対策案」を整理した。

【得られた成果】

- 参加者の大多数が時間までに避難経路要所を通過し、浸水想定区域を越えることができた。
- 避難所へ入場する際のコロナ対策として、検温・手指消毒等の作業を実施した。初めての試みであったが、滞りなく円滑に実施することができた。

【今後の対策案】

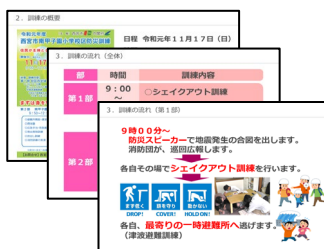
- 町民の中には過去の訓練を通して、津波が発生したら近くの裏山に避難すべきとの考え方が刷り込まれているため、避難生活を営める場所へ避難することの重要性を今後一層周知していく必要がある。
- 避難所開設訓練は、統括責任者の指示を役場サイドの指揮役が要員へトップダウンできる体制を整備しておくことが望ましい。

訓練内容

令和2年10月5日(月) 事前ワークショップ

共助を実践する上での地区防災計画運用の有用性についての講演を聴いた後、実際に地図を用いて災害時の避難経路を確認した。また、福祉施設の入居者や工場での外国人研修生等要配慮者の避難方法の留意点について意見交換を行い訓練当日に向けて意識を高めた。

▼説明資料（抜粋）



10月31日(土)10:00～

シェイクアウト訓練・津波避難訓練・避難所開設訓練・設置運営訓練・防災講話・炊き出し訓練

緊急地震速報の発表後、参加者は、各自の居場所で身の安全確保のためシェイクアウト訓練を実施した。その後、町では防災無線を用いて避難指示を発令し、最寄りの高台等へ避難するよう住民に呼びかけた。要配慮者の避難については避難誘導や介助する職員の配置を明確化しておく必要があることが分かった。

避難場所では安否確認をするとともに、到着時間を記録した。

古平小学校にて、参加者に避難生活のイメージをもってもらうため、消防団のレクチャーによる段ボールベッド・パーテーションの組立、使用体験を実施した。また感染症対策を踏まえた避難所運営の一環として衛生用品の紹介を受けた。

札幌管区気象台気象防災部地震火山課長の阿南恒明氏より、地震・津波災害の基本的な防災知識をテーマにした講演会を実施し、町民の防災知識の向上を図った。

古平福祉会「みっくすベジタ」で調理したカレーライスを古平町食生活改善推進員会で配膳し参加者全員で食べた。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



▼段ボールベッド組立・使用訓練



▼防災講演会



▼炊き出し訓練



令和2年12月7日(月) 訓練後ワークショップ

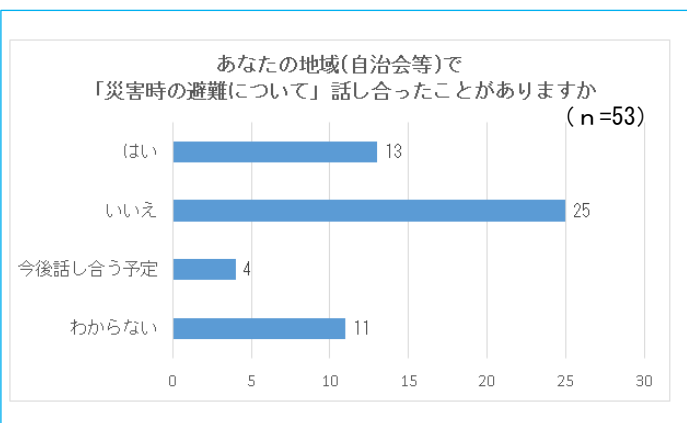
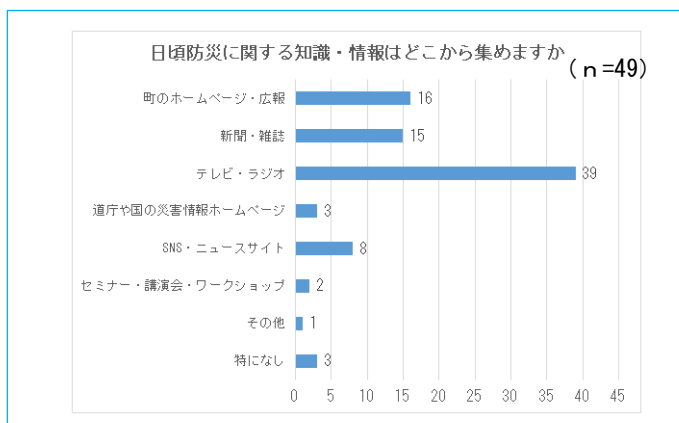
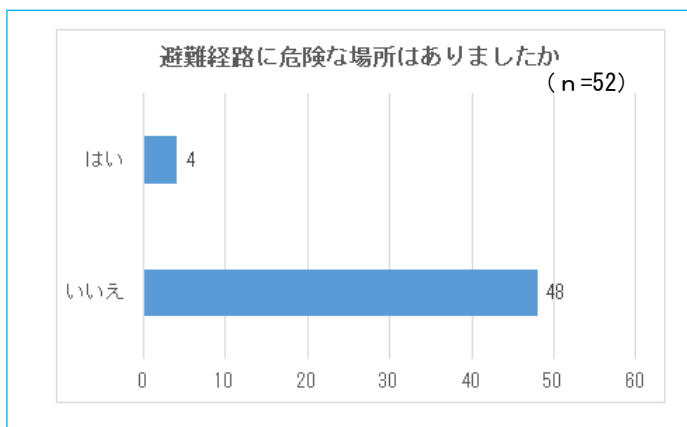
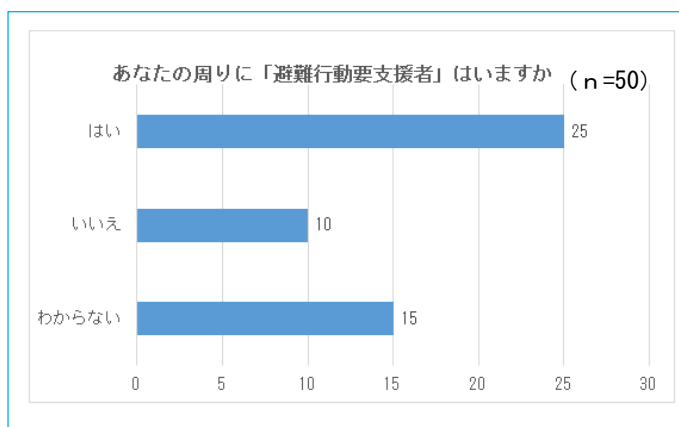
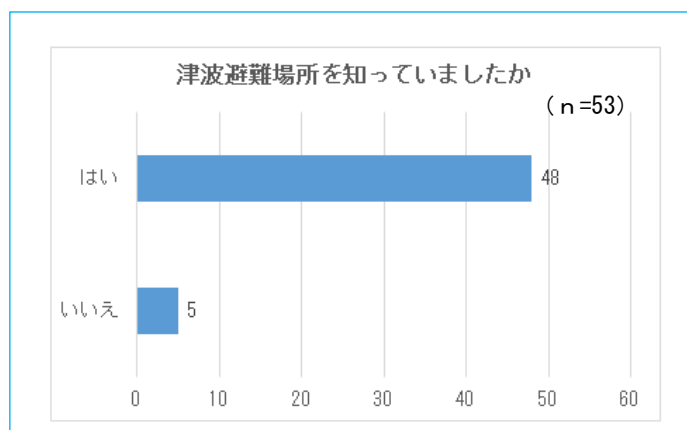
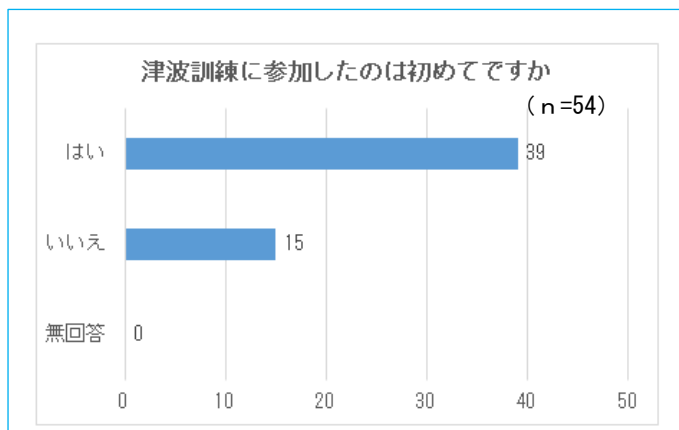
津波避難訓練の振り返りを実施し、高齢者等の要配慮者の避難については、あらかじめ地域で把握し、皆で協力する必要があること、今後、防災訓練は町全体の行事として継続して実施する大切さ等の認識を共有し、来年度以降の訓練に反映することとした。

▼参加者住民等による意見交換



アンケート結果

参加した町民に、防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。



【自由意見】

- 自宅から避難所までの経路や移動時間を知ることができた。
- 段ボールベッドやテントの組み立てなど実際に見ることができてよかった。
- 足腰の弱い人は避難できないので、巡回車両があると良いと思った。